

# フォロースポットライト 消毒の手引き

ver. 1.1

ウシオライティング株式会社

2020/08/5 策定

## (1) 概要

この文章は、COVID-19による二次感染の危険を最小限に抑えるためのフォロースポットライトの清掃・消毒手順書です。

本書はウシオライティングの製品のみを対象としています。

## (2) 消毒に必要な消毒剤・部材

以下の消毒剤が使用可能です。ただし、対象によっては使用出来る消毒剤に下表の制約があります。**消毒終了後は、必ず消毒剤を拭きとって下さい。**

### 消毒剤

<p><b>消毒用アルコール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消毒用アルコール（エタノール：76.9～81.4vol%）</li> <li>無水エタノール（濃度99.5vol%）を、水道水で2倍希釈した溶液</li> </ul>
<p><b>界面活性剤溶液</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅・家庭用洗剤を希釈した溶液</li> </ul> <p>下記、経済産業省HPを参照</p> <p><a href="https://www.nite.go.jp/information/osirasedetergentlist.html">https://www.nite.go.jp/information/osirasedetergentlist.html</a></p> <p><a href="https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200626013/20200626013-3.pdf">https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200626013/20200626013-3.pdf</a></p>

### 部材

<p><b>マイクロファイバークロス</b></p> <p>汚染物の非再付着性（一度捕獲したウィルスを塗り広げない）に優れる。</p> <p><b>ベンコットン</b></p> <p>連続した長い繊維で製造された不織布で、繊維の脱落が少ない。</p> <p><b>綿棒</b></p> <p>ボタンやスイッチの周辺の細かい箇所の消毒に便利</p>
---

表1：対象による使用消毒剤の制約

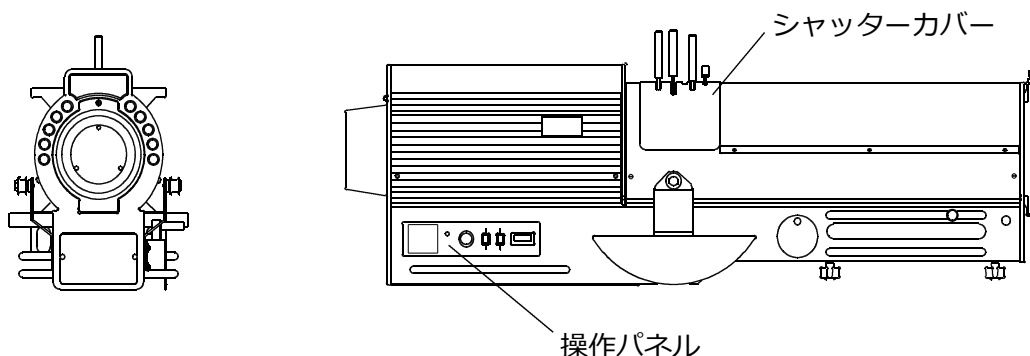
対象	使用可能な薬剤	禁止事項
金属部品 ・塗装部品 ・メッキ部品	消毒用アルコール	次亜塩素酸水の使用禁止。 金属部品の腐食の可能性あり。 メタノールの使用禁止。 中毒症状の危険あり。
シャッターカバー 樹脂部品 ・スイッチ ・ニギリ取っ手 ・ケーブル被覆	界面活性剤溶液	アルコール系消毒剤の使用禁止 劣化による割れ破損の可能性あり。 作り置き禁止 作り置きした溶液は効果が無くなる為、 都度使い切ること。

### (3) 消毒作業

注) 必ず整流器の入力電源（ブレーカ等）をOFFにしてから、作業を行ってください。  
保護手袋、保護面（保護メガネ等）を必ず着用してください。

#### <灯体・スタンド>

- ・金属部品は消毒用アルコールを染み込ませたマイクロファイバークロスもしくはベンコットン（以下クロスという）で拭き上げる。
- ・操作パネル及び樹脂部品（表示灯、スイッチ類）は界面活性剤溶液を染み込ませた柔らかいクロスで拭き上げる。その後別のクロスで水拭き、乾拭きを行う。  
※消毒用アルコールが付着すると故障、変色の原因になります。
- ・シャッターカバーは界面活性剤溶液を染み込ませた柔らかいクロスで拭き上げる。その後別のクロスで水拭き、乾拭きを行う。  
※消毒用アルコールが付着すると植毛が剥がれたり、変色の原因になります。



#### <整流器>

##### K S Xシリーズ

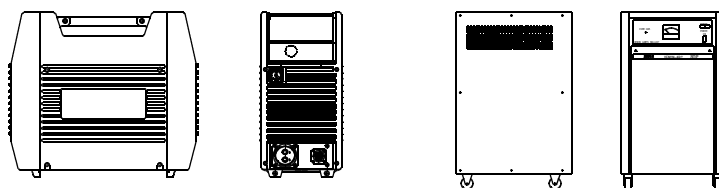
- ・外装部品が樹脂製品の為、界面活性剤溶液を染み込ませた柔らかいクロスで拭き上げる。その後別のクロスで水拭き、乾拭きを行う。  
※消毒用アルコールが付着すると故障、変色の原因になります。

##### K C Xシリーズ

- ・金属部品は消毒用アルコールを染み込ませたクロスで拭き上げる。  
スイッチ、表示部は界面活性剤溶液を染み込ませた柔らかいクロスで拭き上げる。その後別のクロスで水拭き、乾拭きを行う。

#### K S Xシリーズ整流器

#### K C Xシリーズ整流器



## 注意

- 消毒剤の使用は最小限に抑えてください。長期の消毒で、外形または樹脂に退色やひび割れが生じるおそれがあります。消毒により製品、部品に変化、異常が見られた場合は、製品の使用を直ちにやめて、サービス担当者に修理依頼をして下さい。
- 装置に直接スプレーをしないでください。消毒剤が装置に侵入した場合、装置の故障やその他問題につながるおそれがあります。
- 消毒中は電源を切ってください。消毒後に電源を付ける時ははしっかりと換気をして下さい。可燃ガスが室内に残留している場合、発火、発煙、爆発、感電の危険性があります。